



調所広郷没後160年忌を迎えて

調所
—郎（調所広郷七代目）

寄稿

眞奴い奴こい眞奴い絵わ
ろうとしている平成二十
年。私の先祖である幕末の
薩摩藩家老・調所広郷(通
じょうしょくひろくに)
(こうじやう)、一

トスマ「窓姫」では平幹
朗氏の熱演で露払いをさせ
ていただき、末裔として光
栄なことであつた。

功罪半ばした薩摩藩家老
複眼で今後見据えたい

れていたが、実際は、その
反対で、笑左衛門は腹心の
部下を指宿に派遣し、菜種
やハゼ蝶ハゼテフといった商品作物
つまり今和泉島津家は、
天保の財政改革における國
志であつたのだ。ちなみに
その時の名残が指宿のタ

れていたが、実際は、その
反対で、笑左衛門は腹心の
部下を指宿に派遣し、菜種
やハゼ蝶^{ハゼテフ}といった商品作物
つまり今和泉島津家は、
天保の財政改革における同
志であつたのだ。ちなみに、
その時の名残が指宿の名

も、十四代沈壽官氏による
と、少年時代の小松帶刀（肝
付尚五郎）に笑左衛門が殖
産興業の話のなかでハゼ蝶

そして本日、十二月十九日は笑左衛門の命日（嘉永元年＝一八四八年）であり、偶然、篤姫の誕生日（天保

郷どんと対立した家老として描かれたことと関係があるりそうだ。鹿児島には以降から調所家を敵視するよ

最近は、天保の財政改革が無ければ、幕末から明治にかけての薩摩藩の活躍は

は車治左衛門の顔が同じよ

すしょ。いちろう氏 190
0年生まれ。慶應大学卒。コ
サルティング会社を営む。調
広郷の七代目の子孫にあたる。

みえて、後に家老・指宿の地頭となつた小松がハゼの木を植えさせ、昭和三十一年ころまではハゼの並木が当地に残っていたという。

である。ちょうど没後百十年に当たるというわけ
で、墓前供養祭が島津家の御厚志もあり、鹿児島市
旧福昌寺墓地で行われる。

七高を中退したのも笑左衛門絡みと聞いている。

ただ、この「南国太平記」は、よく読めば功罪半ば半もの、藩のために苦労

の一致するところとなつてゐる。

がつたように思えた。そ
先から問いかけてくる「
と影」に、今後とも複眼
な目を向けていきたいと
えていく。

の花であり、その名を冠した「菜の花マラソン」もある。また、ハゼ蝶に関しては、すでに大阪などでも高く売りさばくルートは開発済みであった。

第三回　門の話を終じ
衛門の死後、その遺品を押
めて村の人達が建立した招
魂墓も残っている。

この前年から直木三十五の「南国太平記」がヒットしており、そこで齊彬公や要

四〇九

文庫の

十二代沈壽官が若くして活躍していた頃、笑左衛門は、やはり殖産興業の一環としての薩摩焼振興のため、たびたび苗代川（現日置市美山）を実際に訪れてるので、苗代川に伝わる

この墓は私が七年前、東京の九品仏^{くじゅぶつ}淨真寺から分骨改葬して建立したものである。昭和六年七月までは、旧福昌寺墓地に在ったのだが、祖父広良が、どういうとになつた。

天保山の松林のなかにたむ


はすむ調所広郷の像
鹿児島市天保山町

天保山の松林の中にたたずむ調所庄郷の像

